

JGS 勉強会

『世界のエメラルドと処理の現状』 レポート

株式会社マックスガイホールディングス

小西 美香 FGA DGA



エメラルドのオイル含浸処理は、おもにクラリティの改善を目的に行われ、透明度の向上と緑色が濃くなり外観が美しく見えるようになります。

古来よりオイル含浸されたエメラルドが流通し、1980年代後半からはエポキシ樹脂を含浸したのも出回るようになりました。

セミナーでは、オイル含浸されたエメラルド 2 石をアセトンに浸し、60 度のお湯で湯煎しオイルを抜いて含浸処理をする前と後の比較をする実験をしました。オイルを抜いたエメラルドは白っぽく見え、これは曇りガラスに水分が付くと透明度が増して見えるのと同じ原理ということがよく理解できました。

また、色により産地をあてるクイズをとおして、産地の地質に含まれる着色元素の割合により、外観の色が違うことを 21 石もの産地の違う石を比較して見るができる機会がありました。エメラルドの産地としてはコロンビア産、サンビア産、ブラジル産、ロシア産が知られていますが、最近新しくエチオピアが産出国となりすでに市場で流通しているとのことでした。エメラルドの色は主要な着色元素がクロム(Cr) の場合は緑色、バナジウム(V)は黄緑色、鉄(Fe) は青緑色の外観に見えます。着色元素は産出国によりがわずかに異なり、産地を示す手がかりになることがあります。

中央宝石研究所をはじめ、日本の鑑定機関では含浸処理の有無が記載されますが、その程度は記載されません。海外の鑑別書には含浸処理の程度がランクで記載



されており、含浸するオイルや樹脂の量によりクラリティをどの程度改善したのかが示されています。今後、海外で購入したエメラルドの製品と共に見る機会が出てきたときに役立ちます。

オイル含浸はエメラルドを採掘し研磨する前に行われ、流通されるエメラルドにオイル含浸のない、いわゆる『Non Oil』がまれに見られます。北脇博士に10倍ルーペで見分けられるかを伺ったところ、専門機関による分析以外での看破は不可能とのことでした。

メインの着色元素によるエメラルドの色での産地特定は肉眼では難しく、これからも経験を積んでいこうと思います。

次回の勉強会では、合成エメラルドについても取り上げていただきたいです。エメラルドは流行や世界情勢に価格の高低差が大きいので、動向に敏感になりながら業務にいかしていきます。このたびは、ありがとうございました。

※このレポートの内容・画像の無断転載を禁じます。

(一社) 日本宝石協会 事務局